



郵便振替 小樽1-570 あいら札幌

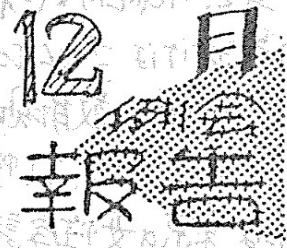
No.155 あいら札幌連絡先 通信担当
 細田英理子 TEL 644-2727 高橋芳徳

今月の目次

12月例会報告	1, 2	天門PTA, 3世PTA等	5
1月例会案内	2	専守レポ・レー	vol.3, 載
今年1年をふり返って	3, 4, 5	情報	6, 7, 8

1991年 12.31 発行

恒例 忘年会



年末に来年の方針が決まらなくて。もう何年経っただろう。
 零細企業の自転車操業よろしく。翌月の例会が編集会議にちと
 決まる。という思はワタシが定着しつつある。そして今年も、なんやか
 のまま、忘年会を迎えしめた。

今年の例会テーマ

- 1月. '91. あいらは...? ぼちぼちいっか...
- 2月. 大島がおる。そのフェミニズム度。
- 3月. 女たちから女たちへ... 市議選に元気のいい女たち。立候補!
- 4月. 性教育の授業をふり返って。
- 5月. 映画「潤の街」上映を前にして。
- 6月. '91. 春の市議選を終り。
- 7月. 「強姦神話」にとらわれていませんか
- 8月. 男性も参加して。8月例会「合宿」
- 9月. 日本から打ち寄せた女たち「朝鮮人従軍慰安婦」
- 10月. 三井マリ子さんの講演会。
- 11月. 議会に新風を吹き込め... 山口知議員をお招きして。
- 12月. 恒例。忘年会。

通信をめぐりながら... 今年は何といえ「性差別」の中にも究極
 の「性」の差別についてのテーマをいじり、と云えるだろう(格好は、今年のテーマは
 だいた、と云うか、あいら札幌の現状と表はして欲しいと思う)。

忘年会当日は、お礼も前日、朝日新聞に掲載された、エイド・ボスターの訪で
 いた。一枚はコンドームの中に裸の女性が入っている図柄に「薄くも
 エイズにはじゅうぶん厚い」。もう一枚はパスポートにニヤニヤ顔で
 隠した男性に「いらいはい、エイズに気をつけて」とある。明らかにも買春男だ。
 戦中、東南アジアを軍靴で侵略した日本の男は、今も、エコバックアマル、
 セックスアマルとして、侵略を続けている。参加者一同、「コンドームとヌド」
 より、「買春男」の図柄が許せないと思った。道内では、抗議の声を上げる前に
 自粛しておいた。どうして、それが性差別なのか理解していないままに自粛して
 しまったように思う。

年々、先細り気味の「あいら札幌」も
 血気だけはさかんだ。

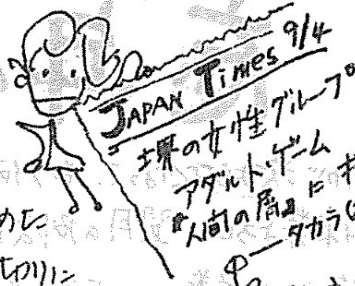
数年前から教育現場で、性教育をせよめ
 E.H.さん、今年札幌での校外授業を皮切りに
 夏には東京の女子学講座「性教育と女子学」を、
 秋には、地元札幌で自由学校「遊」のフェミニズム講座を担当し、フェミニ
 ムが基本の性教育を広められた。

夏から秋にかけては、道警ボスター抗議。市議会での「おいらん道中」質問
 中のヤジに対する抗議と申し入れ、と、戸外での活動が目立った。

忘年会には、又々 Dr.T や作業療法士の A.W. も参加してくれて、医療の
 問題にも花が咲いた。(Dr.T. は精神科、A.W. は老人病院と、やはり社会的弱者
 の現場で、身を物にして働いている)

量り質と強かりの自画自賛はしても、やっぱり人数の減少は、数少ない
 実行委員の負担とあっている。通信も出しつづけていきいといは鬼いつ、おれに
 早く、通信担当順が週、2主と疲労気味、とらな現状。

友人、知人を沢山、あいらに誘おう --- ね。(楨・芳恵)



← 翻訳後
 本当は英語
 (日本語の
 新聞には
 取上げられ
 ず...)

相変訳の日本のマスコ

1月例会

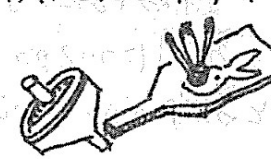


1月13日(月) P.M. 7:00 ~

細田宅 (西区琴似1条6丁目、クラボウ琴似408) TEL. 644-2927

一品持ち寄り、お茶 カナ

今年の方針、おまかせ~~~~~



今

年もこの欄に行く年、くる年(?)を書き月がめぐってきた。
あごらの読者にとっては、どんな年だったのだろうか。ごぶさたしているMさん、Yさん、Oさん...の顔と思い浮かべながら、原稿を喜んでいる。

私にとって、この一年は、核燃に明け、核燃に暮れた。世界最大の核の施設が出来たのである。核の先進国では恐ろしさに気づいて手を引き始めているのに、何とにも核の大国になりたい野望を捨てられない政府とどうなる事ならなんでもやる企業...、いざとなれば原爆だっで作れる施設に狂える。

五月の反核燃選挙六ヶ所祭り、ヒーステイト、と六ヶ所通いとしている中で、これはまぎれもなく戦争だと私は思った。

女たちのヒーステイトでは、忘れられない女たちにいっぱい出会うことができた。高知のHさんは、ウラン搬入の当日、1才の子を抱え、9ヶ月の身重でトラックの前に身を投げ出した。何という事! 私たちはかけ寄せた。若い警官が、「何におるかの大きい人がこんな危険な所にいるんですカア!」と叫ぶ。「私は核燃の方が恐いんです。」目を真赤にした彼女が答える。彼は言葉につまんでいた。普通の彼女は、女の静かできつめのヒースフレシな人である。私たちが「どう行かな...」とかけ寄せた時、ちよっと照れくさそうに笑った時の白い歯が、なんとか美しかった。運動は強くて手慣れた人がやる時代では、女はやらない。弱者が弱さをさらけ出して権力に対峙する時代になっていることを実感した。

もう一人、福島の人。養護教員をしながら、原発銀座の福島で活動している。彼女を見ると、シュタイナーの天使の語を思ってしまう。天使の羽は人と思、行動がする程大きくなるという。勿論、自分と守りた...から活動を始めると言う。運動の中で、それを越えてしまっている人がいる。私は無宗教な人間だから、「我が身を捨てられる人」に出会うと、心おきみたくなってしまふ。Mさんの背中に大きな羽を見て、そう、之が亡くなった両親にこの羽が...ついていた。と今、思う。ごくごく平凡な人達だったから、人に対して骨身に苦しまない人達だった。

来年はMさんと再評価カウンセリングの約束をした。彼女の学校で、私の「暗の森」の授業をさせて頂き福島の田舎をまわる。日本の田舎に、「ああ、よく来てくれた!」と出迎えてくれる友人を増やそう来年はそういう旅をしたい。この一年、私のところにもリポビタルスクの留學生をはじめ沢山の人が泊ってくれた。2月には大阪で私たちの非暴力直接行動の集いがある。自ら解放されていく運動をしていきたい。
(谷百合子)

MOV「プリンセスメーカー」というパソコンゲームがある。これは男の、子育てシュミレーションゲームである（ただし元英雄の父とその養女）。プレイしていて、自分の、あまりの子育て方針の定まらなさにのけぞってしまった。どうにも（将来の）目標が定め切れずに漫然と過ごしてしまって、一芸も秀でることができない。あれもこれもと手を出して、結局何もかも中途半端な子に育ってしまう。

私自身の「自分育て」もこんな調子でやってきたのかもしれないな、とちょっと考えさせられてしまった。 まゆみ

あじらは今年、初めて、外に向けて抗議活動をした。
(警察官募集ポスターに対し) たいてい団体のように
思われているらしいが、通信購読者はいろいろいいますが、
突動部隊は、ほんの少しおねいね。
これを機会に、たぶん新会員が増えるというので……
(真理子)

以上、
一頁
掲載
返す

あじら 本誌 167号 (あじら松山、編集)

たかが PTA、されど PTA

を読んで

芳泉

日頃、PTAは官僚的もしくは、学校の下役の機関と割り切っている私にとって、衝撃的であり、読みこぼしのある内容だった。ここには、まだまだ、あきらめないで、PTAの内部で地に足つけて、PとTが平場で子ども主体の学校をめざしている人たちがいる。「理づめを錦の御旗に」と反動を貫く、自分の特技・技能を最大限にPRに売り込み、権力にこびりついて体制におきこまるか、どちらかに傾けば生半端に思うよ……私は物とらぬ嫌で、絶対に生涯アマチュア (p98) 口をあけた。あじら松山を旗上げに、奥川睦さんの人柄がにじみ出ているうな文が……

サイレントレター

SILENT LETTER

『新しい男たちのネットワーク通信』

発行：〒003 札幌市白石区本通16丁目北3-1-102 安岡菊之進 ☎(011)863-0324

ポルノグラフィから自由になる

どんなにお金持ちになっても、どんなに貧乏になっても、女性をお金で買うこと、あるいは自分の性をお金で売ることを拒否したい。ともすると、どうしてもなく追い込まれたときの精神的な背骨として、その思いはぼくの人間としての誇りを支えている。

しかし、ことポルノグラフィのこととなると、自分自身の中でもハッキリ物申すことができない自分がある。

コンビニエンスストアに並ぶ数多くのアダルト本。町にあふれる女性の体を誇示したポスター。銀行の待ち時間、写真週刊誌フォーカスやフライデーをバラバラめくると目に飛び込んでくる女性のヌード。女性の体を、胸、腰、足とバラバラに切り取った写真が並ぶ。NOという思いがあると同時に、見てみたいと気になってしまう自分。ポルノ映画、ヌード写真、アダルトビデオなど、それらを見た後の何ともやるせない自己嫌悪から解放されたいと願う男は、きっとぼくだけではないはずだ。

これだけ多くのポルノグラフィが街中にあふれる中で、その定義というものはとても難しい。女と男が対等であると感じられないもの。どちらか一方が（圧倒的に女性なのだが）性的に低い存在、“見られる”モノとして表現されているものはすべてポルノグラフィと言えるのかもしれない。

セックスを思い起こさせるようなポーズをとっている男のヌードを見るとイヤだな、と感じるのに、こと女性のヌードとなると、男も女も社会全体が見慣れすぎている。写真、絵画、映画、ビデオ、そして本。それら何かを表現し伝えようとするものには、すべて制作する側の思想が作品にでる。たとえば人物の写真。何をこの写真で訴えたいのか、そのためにはどう撮ればいいのか。どんな角度で、どんな格好をすればいいのか。これらは全て、制作者の思想（意図）なのだ。

同じヌードだとしても、赤ちゃんを抱いて優しくほほえんでいる男性だとしたらどうだろう。伝えたいことはマルッキリ変わってくるはずだ。そんな写真が街中にあふれた

ら、どんなにすばらしいだろう。おのずと自分が持つ男のからだ、男の性のイメージは変わってくるはずだ。それはもちろん、女が男を見る目も変えていく。

できあがった作品よりも、その過程である思想そのものをポルノグラフィというのかもしれない。

男でさえ、露骨な男のヌードをみているいろいろな「イヤだ」を感じるのだから、このポルノ社会に生きる女性の一人ひとりのボディイメージというのは、ズタズタに引き裂かれているのだろう。

とまれ、ポルノグラフィという女性を商品とする産業が、多くの買売春、ひいてはレイプを引き起こす社会的な温床となっている。ナイフは、リンゴの皮を剥く時には生活を豊かに創造する道具となるけど、殺人に使われるとき、それは凶器になる。そして、ペニスも同じだ。目に見えない“愛”を具体化し、いとおしさと優しさと親密さ楽しさを表現するためのペニスも、使い方次第で人間を破壊へと追いやる。

性とからだも同じだ。キレイなモデルとの比較でもなく、社会からどう見られているかということでもない。人々の性とからだは、その人この人、あるがままで美しくすばらしいものなのに、表現する側（作り手）によって大きくねじ曲げられ、より一層女性をおとしめるものとなっている。ポルノグラフィによってゆがんでいる性、それはひとりの女の、男の、心の奥深くまでしみとおっている。

ところで、なぜ男はポルノを見たがるのだろう。

男性学的にいうと、男は女に比べて、幼い頃から気軽に体にふれ合ったりすることが少ない。感情を表現することができないことが挙げられる。ぼくも、いろいろな人との別れぎわや出会ったときの喜びを、体を抱きしめることで感情の表現をしたいのだけでも、いつもとまどってしまう。オチンチンが小さい、背が低い、顔が格好悪いとか、小さな頃から自分の体のことで否定的なことを言われてきた傷がいやされていない、などなど。ポルノを見ようとする理由はたくさんあるだろう。

今までのぼくは、性欲＝ポルノだった。ぼくが最初に出会ったポルノは、中学生の頃。父親が買って来た週刊誌のグラビアをひとりこっそりと見ることであったり、通学途中のポルノ映画のポスターだった。けれど田舎だったから、人の目がいつも光っていたし、自分で映画やアダルトビデオを見たり、雑誌が容易に手に入るようになったのは、ここ札幌に来てからである。ぼくは女性の体にとっても興味があったし、真正面から性をとりあげた性教育を受けたわけでもなかった。異性への興味を満たすためには、男である自分にとってポルノしかなかったのかもしれない。

性に目覚める頃、女と男が対等にセックスしている美しい映画やストーリーにめぐり合ったり、大人から「興味があるのは当然なんだよ」と日常の中で言われて育てば、性欲に対しての後ろめたさもなくなっただろう。またそういう性教育がしっかりとされていたら、男がポルノに走ることはないのではないか。ぼくの頭の中には、性欲＝ポルノグラフィという回路しかなかったために、ポルノグラフィを否定されると自分の性欲まで否定されているような気がしたものだ。それほどまでに今の性産業は、一人の人間の思考回路を簡単につくってしまうほど、巨大なものになっている。子どもの性に対する

注目!!!

今月号の切手は、お玉つち切手です。(カネズミ3円も高かたにレゾ〜)

④

1月5日の発表時には是非見下さう。

考え方を決めてしまうし、大人までもその刺激のドレイにさせることができるのだ。これでもか、これでもかといわんばかりに性欲、というよりは男が女を支配する権力欲をセックスイメージに植えこんでいる。

知恵遅れの障言者をだまし、ラーメンいっぱいであだルトビデオを撮らせる。明確にNOといているにもかかわらず、監禁されピストルで脅されながらカメラを回される。ポルノグラフィの果てはそういうものなのだ。そんなポルノグラフィから、ぼくも、あなたも、心の底から解放され、NOと言える男になりたいと思いませんか。

ぼくの場合、自分を鏡に映し、こよなく自分のからだを好きになっていとおしむ。そして自分に言葉をかける。「オチンチンが小さく見えても、頭がはげかかっている、筋肉モリモリでなくても、ぼくのからだはあるがままで美しい」と。パートナーにそう声をかけてもらってもいい。自分がそう感じることで、異性である女性のからだもあるがままで美しいと感ずることができるようになる。

そうやって、自分の中にあるボディコンプレックスを静かに取り払って行って、女と男が対等に愛しあうセックスイメージを想像するのだ。ぼくの現在のパートナーは障言を持っていてジョイントすることができないから、顔、指先、目、口、舌、腰、ひじ、足、からだの全てを使ってパートナーとの楽しく気持ちのよいセックスをイメージする。そんな自分のボディイメージやセックスイメージを語っていく中で、新しい性のイメージを創っていく作業が必要だと思う。

ポルノグラフィからほんとうに解放されるには、きっとそんなところから始まるのだろう。

INFORMATION

• 1月14日(火) 6:00PM ~ 9:00PM. 於: 婦人文化センター. 参加費500円

サリンへの想像力「講演と対話α7」・詩人たちのサリン...小笠原 克

・サリン=北海道...加藤 マー

• 2月13日(木) 6:00PM ~ 於: 市民会館

日本の戦争犯罪を考える女性のつとめ... 従軍慰安婦... 詳細は次号にて

• 2月17日(月) 10:00 ~ 19:00 1時間ごと. 於: かでる 27

「奇妙な出来事. アビー」上映

あとがき

年がく。年と時の経過を早く感じる。そして、子供たちや、知友の目に見る成長、変化を見、あせている。今年も、11月になり、終るうと云う。"あいらね山"編、「FODのPTA. こととPTA」に於ては、国際化社会に村をこぼす子と教育の教育、2何の、国際市の教育委員会、日本の居た、を周知して、国際社会に於ては、(国の象徴と尊重の意識)と云う、国際社会の中で、教中、教育と浸透を云う。東南アジアに入ると、はい、...